

令和 6～7 年度共同研究プロジェクト 「持続可能な地域連携」

研究テーマ	職	学部	職位	氏名
Toward the Realization of Diploma Policy Goals:A Consideration of the Case of the International University of Kagoshima	所長	経済	教授	アイリッシュ ジェフリー
鹿児島から考える持続可能な地域経済	所員	経済	准教授	平出 宜勝
チームの多様性と同質性がフィールドワークに及ぼす影響	//	経済	講師	樋口 晃太
地域共創を基盤とした地域形成 －地域実践における「持続性」の考察－	//	福祉社会	准教授	川崎 竜太
授業と校内研修の改革を中軸とした学校改革 －鹿児島・熊本・沖縄におけるアクションリサーチ－	//	国際文化	准教授	内山 仁
域学連携を基盤とした初年次フィールドワークの 教育的意義を考える	//	看護	准教授	稲留 直子

令和 6～7 年度共同研究プロジェクト「持続可能な地域連携」は、所長を含む 6 名の所員により、地域経済、チームビルディング、地域福祉、教育等をサブテーマとして研究を実施した。

令和 6 年 11 月には、川崎 准教授を中心に「誰ひとり取り残さない福祉のまちづくり」をテーマとした研究会を開催した。本研究会は、フィールドワーク、座談会、講演会の 3 部構成で実施され、農福連携を通じた新たな福祉のセーフティーネット構築について理解を深めた。なお、座談会の様子は MBC ラジオでも放送された。

令和 7 年 3 月には、稲留 准教授を中心に、種子島においてシンポジウム「地域で支える子どもの育ち、誰もが輝く島づくり」を開催。離島における児童発達支援の普及・啓発に寄与するものとなった。また、同時開催された種子島の高校生と大学生による協働ワークショップ「わかもの会議」では、子育て・医療・教育の 3 分野について、島内フィールドワークの成果を踏まえた提言が行われた。

令和 7 年度には、アイリッシュ所長の発案により、「フィールドワークカフェ」を 2 回、「ゼミ活動プチワークショップ」を 3 回開催し、延べ 60 名の教職員が参加した。これにより、学部・学科や職種の枠を越えた交流が促進され、大学全体で地域連携を推進するための意識が啓発された。

さらに、令和 7 年 11 月には、樋口 講師を中心とした研究会「自転車で見つける地域の価値と、わたしの散走(さんそう)」を開催した。初日は散走プラン作成のワークショップ、2 日目は南さつま市における散走体験会を実施し、県内の自転車ツーリズム関係者、自治体職員、学生らとともに、地域の魅力を発見する手段の1つに認識を深める機会となった。

令和 8 年 3 月には、「共同研究プロジェクト最終報告会」を開催し、研究成果の報告を行った。会場となったワーキングスペースは、桜島から大隅半島、南薩を見渡せる絶景スペース。研究書庫の閲覧スペースを再整備したものであり、そのお披露目の機会ともなった。今後は、教育・研究活動に加え、教職員および学生の交流の場としての活用が期待される。報告会では、6 名の研究者がそれぞれの研究成果を発表し、多様な分野から地域連携のあり方に関する知見が共有された。各発表に共通していたのは、地域の持続可能性を支えるためには、人と人との関係性を基盤とした継続的な協働が重要であるという点。発表後にはディスカッションが行われ、地域連携のあり方や大学教育との関係について活発な意見交換が展開された。

今後も本研究所では、教育・研究・地域貢献を横断する取組を通じて、地域社会との連携を一層深化させていく。